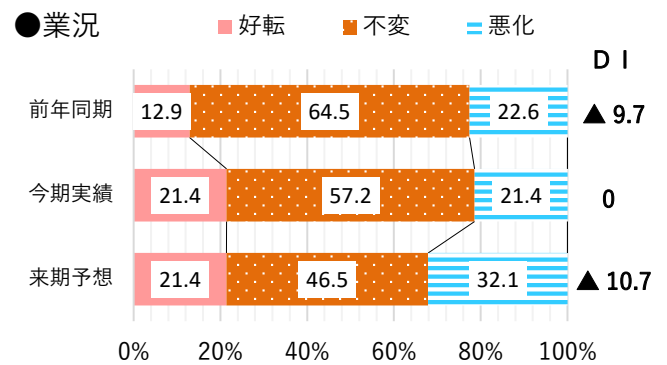


製造業

業況、売上、採算

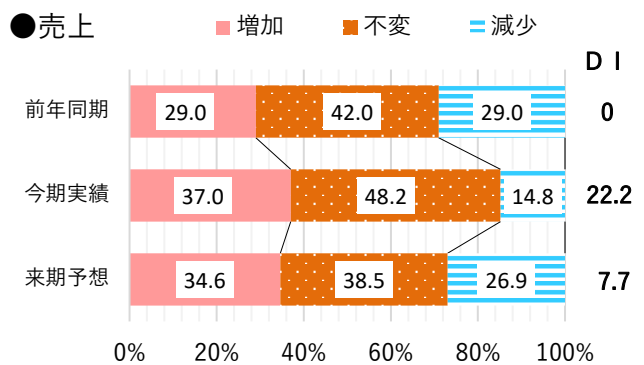
今期（2026.4～6）の業況DIは0で、前年同期（2025.4～6）と比べ9.7ポイント上昇しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲10.7で、今期（2026.4～6）と比べ10.7ポイント低下すると予想しています。



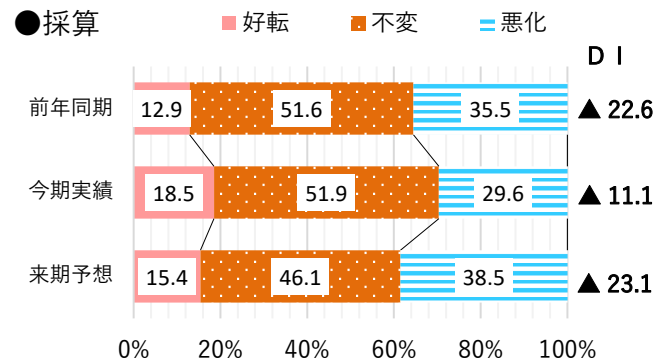
今期の売上DIは22.2で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期の売上DIは7.7で、今期と比べ14.5ポイント低下すると予想しています。

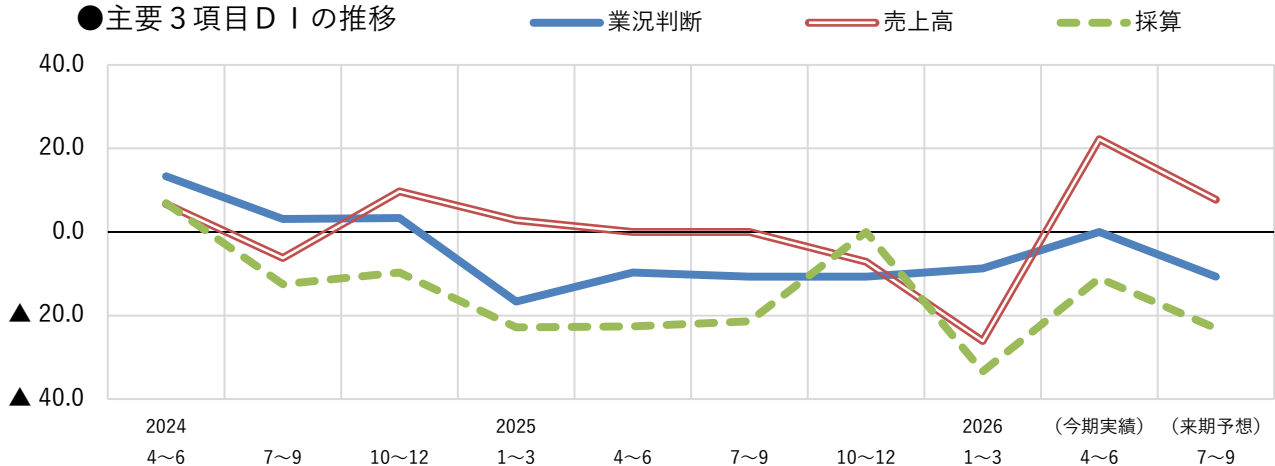


今期の採算DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.5ポイント上昇しました。

来期の採算DIは▲23.1で、今期と比べ12.0ポイント低下すると予想しています。



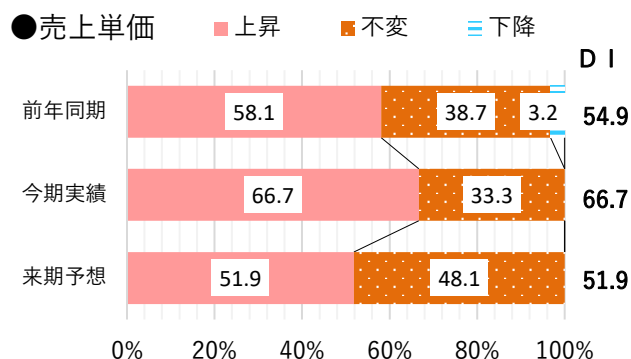
●主要3項目D Iの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

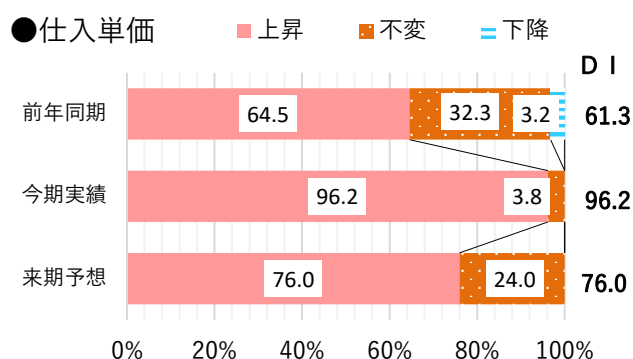
今期の売上単価DIは66.7で、前年同期と比べ11.8ポイント上昇しました。

来期の売上単価DIは51.9で、今期と比べ14.8ポイント低下すると予想しています。



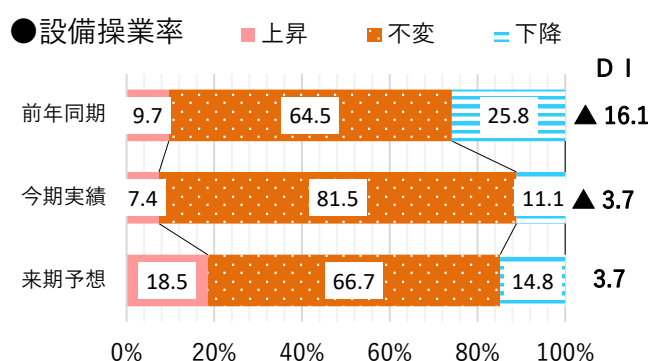
今期の仕入単価DIは96.2で、前年同期と比べ34.9ポイントと大幅に上昇しました。

来期の仕入単価DIは76.0で、今期と比べ20.2ポイント低下すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲3.7で、前年同期と比べ12.4ポイント上昇しました。

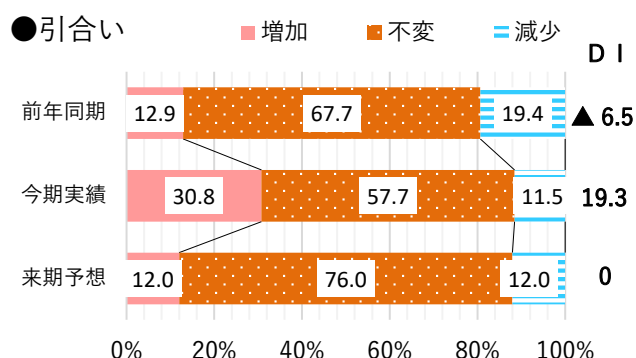
来期の設備操業率DIは3.7で、今期と比べ7.4ポイント上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは19.3で、前年同期と比べ25.8ポイント上昇しました。

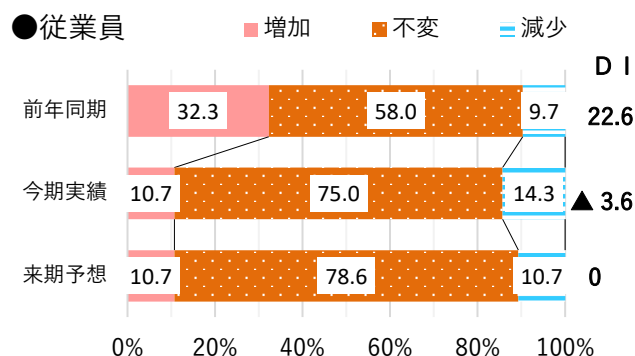
来期の引合いDIは0で、今期と比べ19.3ポイント低下すると予想しています。



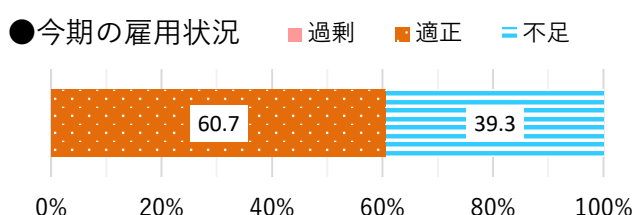
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.6で、前年同期と比べ26.2ポイント低下しました。

来期の従業員DIは0で、今期と比べ3.6ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は60.7%、不足していると回答した企業の割合は39.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、46.4%を占めました。

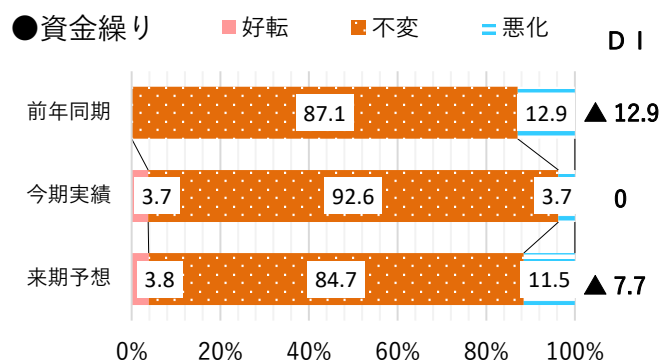
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	3.6%
不変だった	過剰	0%
	適正	46.4%
	不足	28.6%
減少した	過剰	0%
	適正	7.1%
	不足	7.1%

回答総数28社

資金繰り、設備投資

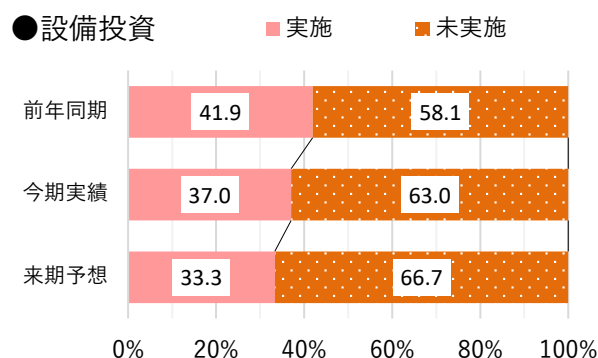
今期の資金繰りDIは0で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲7.7で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



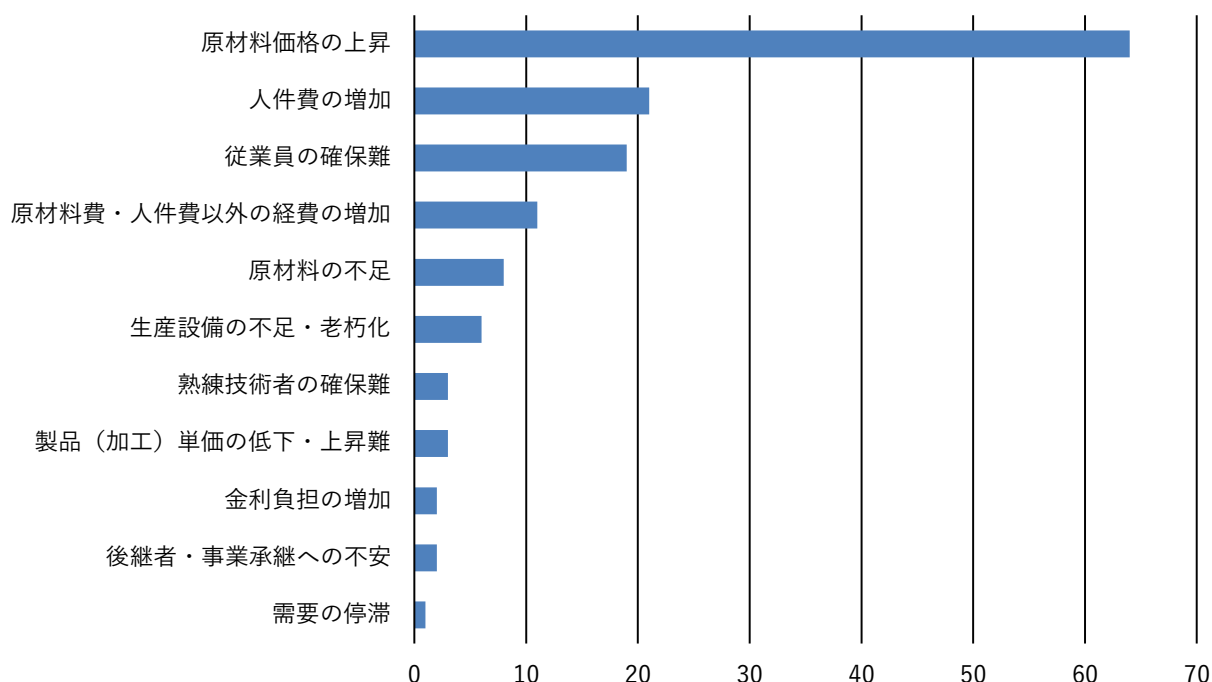
今期の設備投資は37.0%が実施と回答し、前年同期と比べ4.9%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「車両運搬具」でした。

来期は33.3%が設備投資を計画していると回答しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順となっています。



企業の声

[今期の業況について]

- 主原料の仕入価格に合わせた価格転嫁を行ったが上げ幅が大きかったため、出荷量が減少した。（食料品）
- 売上は横ばいだが収益性の高い商品の販路拡大を進めている。（食料品）
- 仕入価格と人件費が上昇し、業況が悪化した。（食料品）
- 売上額が向上し、さらなる利益の追求をする。（食料品）
- 遅れていた複数の大型プロジェクトが動き出した。（金属製品）
- 通常ではない突発的な大きな売り上げがあった。（金属製品）

- 原材料価格が前期比180～200%と急騰し、高値でも安定供給を優先して調達してきたが、製品価格転嫁では原材料分しか吸収できず、労務費・エネルギー・運賃などの上昇分は反映できていない。従業員の高齢化もあり、人材確保の必要性から賃上げも進めているものの、物価上昇には追いつかず、厳しい状況が続いている。（プラスチック）
- 原材料がナフサ由来の為、価格が急激に高騰し購入に制限がかかった。工場の稼働は原材料の輸入量を見ながら行わざるを得ない。納入先からは資材不足の懸念から通常より多く注文が入っている。（プラスチック）
- 原料の仕入価格は上昇しているが、販売価格への転嫁に成功しているため、売上額が増加した。（プラスチック）
- 原材料の仕入価格が高騰している。（紙製品）
- 中東地域からのナフサの供給不足を受けて、工業用ゴム製品における原材料などの仕入単価が上昇しており、長靴部門も仕入値が上昇する中で売上は変わらないので、利益を確保できていない。（ゴム製品）

[来期の業況について]

- ナフサを取り巻く状況が改善すると仮受分が納入される分受注が減少し、改善されないと資材不足による工場の停止が予想されるため、どちらに転んでも厳しい状況を見込む。（食料品）
- 仕入れる原材料のすべてが価格上昇しており価格転嫁が必須だが、出荷量の減少が不安である。（食料品）
- 新商品の開発により、収益を確保する見込みである。（食料品）
- 仕入価格と人件費の更なる上昇を見込む。（食料品）
- 7月以降原材料価格が更に上昇することがサプライヤーから表明されているので原材料上昇分は製品価格の追加値上げで対応する。（プラスチック）
- 原料の仕入価格は世界情勢によって上下するため未定だが、価格転嫁を行い一定の利益を確保する予定である。（プラスチック）
- 複数の大型プロジェクトの本格稼働を期待している。（金属製品）
- 副資材等の確保が困難になると予想しているが未確定な部分が多い。（紙製品）
- 原材料の上昇は今後も続くとみられ、賃上げも最低賃金の上昇具合を鑑みながら対応していかないといけない。その中で、売上や利益の確保の見込みが立っていないので、業況の悪化を想定している。（ゴム製品）